

業績概要 (連結)

HP

売上高増加等による増収、経常増益、29期ぶりの純損失

当期の売上高は、原料費調整制度に基づくガス売上高の増加等により、前期に比べ5,058百万円増加(+6.5%)の82,965百万円となりました。

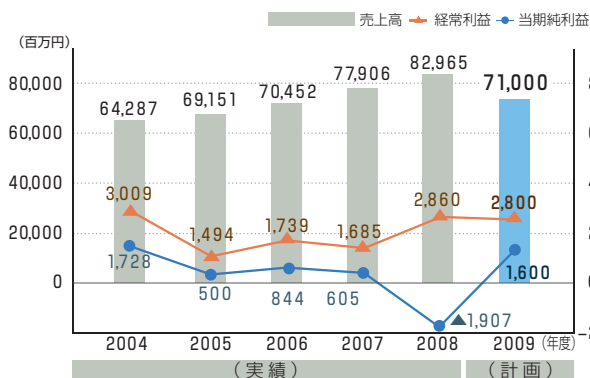
利益につきましては、ガス売上高の増加等により、経常利益が前期に比べ1,175百万円増加(+69.8%)の2,860

百万円となりました。また、当期純利益は子会社による不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、前期に比べ2,512百万円減少の1,907百万円の当期純損失となりました。

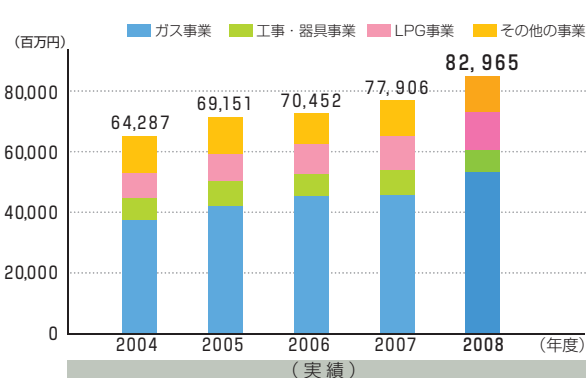
※平成21年8月13日発表の数値に基づいて記載してあります。

収益性/成長性

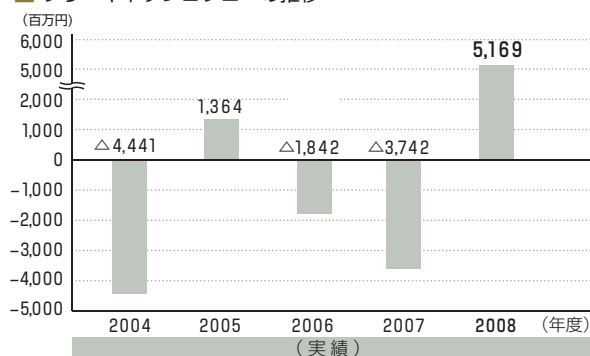
■ 売上高および利益の推移



■ 事業の種類別売上高の推移

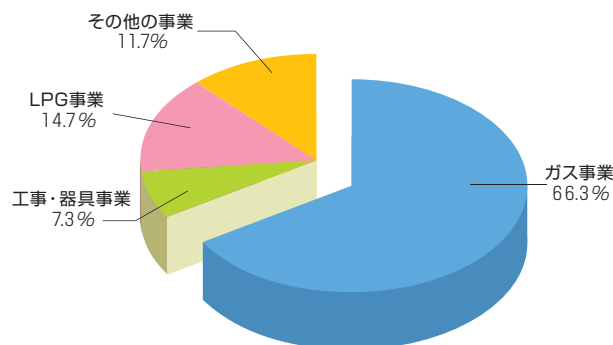


■ フリーキャッシュフローの推移



フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュフロー - (有形固定資産取得による支出額 - 無形固定資産取得による支出額)

■ 事業の種類別売上高構成比 (2008年度)



■ 事業の種類別セグメント情報 (2008年度)

(単位: 百万円)

	売上高	営業費用	営業利益
ガス事業※	55,002 (+10.5%)	50,004 (+7.6%)	4,998 (+51.8%)
工事・器具事業※	6,492 (△6.0%)	6,234 (△8.5%)	257 (+196.4%)
LPG事業※	12,275 (+3.9%)	11,530 (+5.7%)	744 (△18.1%)
その他の事業※	12,475 (+2.3%)	11,497 (+0.7%)	977 (+25.8%)
消去又は全社	△3,280 (+17.4%)	1,410 (+43.0%)	△4,690 (+24.1%)
連結	82,965 (+6.5%)	80,678 (+5.3%)	2,287 (+77.8%)

※各セグメントの数値は百万円未満を切り捨て、従って各項目の総額がセグメント毎の合計と一致しないことがあります。

※〔 〕内は対前年比です。

■ 収益性/成長性

7期連続の増収、29期ぶりの純損失

当期の売上高につきましては、主力のガス事業において、冬季の水温が高めに推移したことや景気後退にともなう消費マインドの冷え込みなどにより、ガス販売量の減少はありましたが、原料費調整制度に基づく料金単価調整等によりまして、前期に比べ6.5%増加しました(7期連続)。

また、経常利益は、本ページ上部に記載のとおりガス売上高の増加等により増益となりましたが、子会社における不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、29期ぶりの当期純損失となりました。

各区分に属する主要な製品の名称 P.9

※ガス事業/ガス導管を通じて供給する都市ガスおよび簡易ガス・他ガス事業者等への卸供給

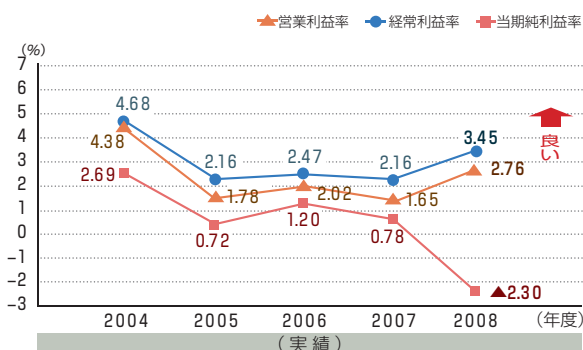
※工事・器具事業/工事: お客さまガス設備 器具: 給湯器、ガスコンロ等ガス器具

※LPG事業/ボタンおよびプロパン

※その他の事業/ガスボンベ充填、プロパン容器検査、検針・保安業務受託、労働者派遣業務、建設工事、住宅関連機器他

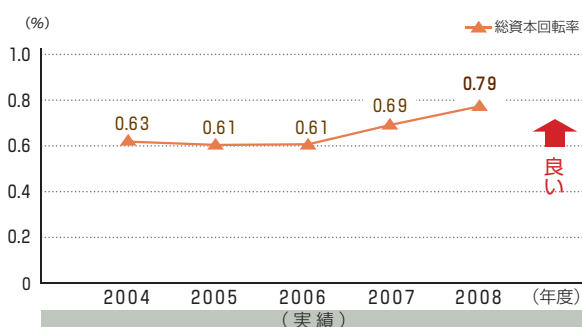
効率性

営業利益率・経常利益率・当期純利益率の推移



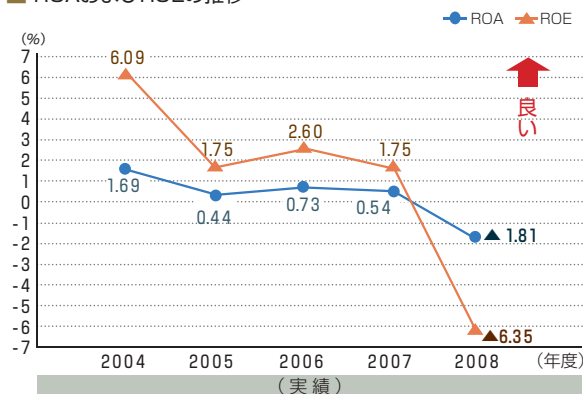
営業利益率 (%) = 営業利益 ÷ 売上高 × 100
 経常利益率 (%) = 経常利益 ÷ 売上高 × 100
 当期純利益率 (%) = 当期純利益 ÷ 売上高 × 100

総資本回転率の推移



総資本回転率 = 売上高 ÷ 総資産 (期中平均)

ROAおよびROEの推移



ROA = 当期純利益 ÷ 総資産 (期中平均) × 100 (%)
 ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本 (期中平均) × 100 (%)

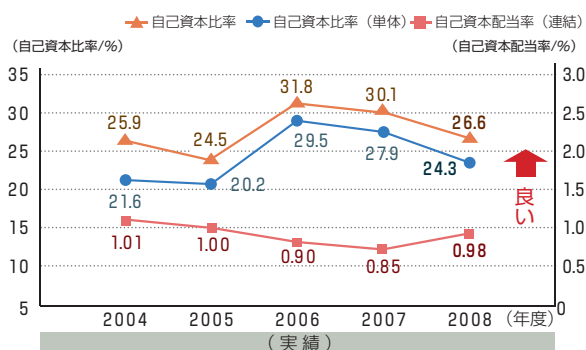
効率性

ROE 5%をめざします

当社は、他燃料との競争力を高め収益力向上を図り、企業価値の増大を図るため経営指標として「ROE」（自己資本当期純利益率）を設定、目標を5%にしています。当期は、子会社による不適切な取引にともなう特別損失を計上した結果、29期ぶりの当期純損失となり、ROEは前期に比べ8.10ポイント減少の△6.35%となりました。2009年度以降につきましては、再発防止に全グループ会社一丸となって取り組み、さらに経営効率化を推進し、収益性を高めることによってROE 5%以上をめざしています。

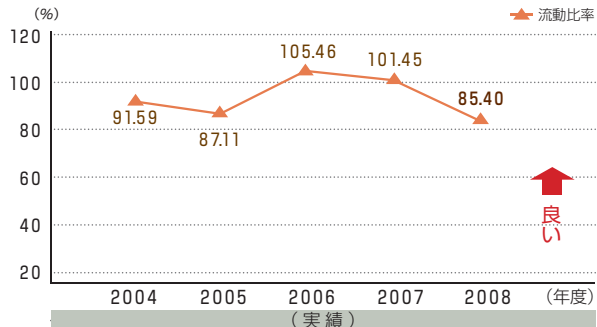
健全性

自己資本比率・自己資本配当率の推移



自己資本比率 (%) = 自己資本 ÷ 総資産 × 100
 自己資本配当率 (%) = 年間配当総額 ÷ 自己資本 × 100

流動比率の推移



流動比率 (%) = 流動資産 ÷ 流動負債

インタレスト・カバレッジ・レシオの推移



インタレスト・カバレッジ・レシオ = キャッシュフロー ÷ 利払い
 (金融費用の支払い能力における安全性を示す指標)

健全性

効率的な投資、資産圧縮による財務体質の健全化に努めます

当期末の総資産は、原油価格の下落にともない、デリバティブ債権およびたな卸資産が減少したこと等により、前期末に比べ11,820百万円減少の99,623百万円となりました。

負債につきましては、有利子負債の減少等により、前期末に比べ4,817百万円減少の71,631百万円となりました。

純資産につきましては、繰延ヘッジ損益の減少や当期純損失の計上等により、前期末に比べ7,003百万円減少の27,991百万円となりました。